

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

果樹カメムシ類の防除対策（技術情報第11号）について（送付）

果樹カメムシ類によるヒノキ球果の口針鞘数および予察灯誘殺数が8月上旬から増加しており、果樹園への飛来時期が近づいていますので注意して下さい。

### 記

#### 1. 発生状況：

- 1) 4月から5月の予察灯およびフェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシへの誘殺数から、本年の越冬量は平年並～やや多かったと推察される（平成23年6月6日付け技術情報第3号）。
- 2) チャバネアオカメムシの予察灯における8月第1～5半旬の累積誘殺虫数は、合志市および天草市が平年比やや少、宇城市が平年比多、ツヤアオカメムシは合志市および天草市が平年比少、宇城市が平年比やや多であり、地域により差がみられた(表1)。
- 3) ヒノキの球果における口針鞘数は8月上旬から増加し、8月中旬には8.0本/果（平年値11.3本/果）と平年並になった（表2）。  
ただし、宇城市三角の口針鞘数は30本/果と、離脱の目安である25.0本/果を超えており、一部地域では増殖場所であるスギ・ヒノキ林からの離脱が始まっていると予想される。
- 4) 天草及び宇城の普及・振興課、各地域の病虫害防除員への聞き取り調査では、一部の地域でナシやカキの果実で被害が出始めており、今後の拡大が懸念される。

#### 2. 防除対象作物：カンキツ類、カキ、ナシ

#### 3. 防除上注意すべき事項：

- 1) カメムシ類は、スギ・ヒノキの球果を餌として増殖する。口針鞘数が25本/果を超えると餌の状態が悪くなり、増殖場所から離脱して周辺の果樹園に飛来する。
- 2) カメムシ類の発生時期や飛来量は地域差や園地間差が大きい。また、同一園内でも局在するので、園内を観察し、早期発見、早期防除に努める。
- 3) 果樹園への飛来や被害を確認したら、カメムシ類が移動する夕暮れ時や早朝をねらい薬剤を散布する。防除にあたっては、必ず収穫前使用日数や使用回数を遵守する。また、他作物への薬液の飛散にも十分に注意する。
- 4) 薬剤散布により、ハダニ類、カイガラムシ類が増加する場合がありますので注意する。

表1 各地域におけるカメムシ類の誘殺状況

地域名	チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ	
	予察灯	フェロントラップ	予察灯	フェロントラップ
合志	226(542)	1(235)	54(184)	0(0)
宇城	848(280)	227(227)	111(69)	0(18)
天草	3,704(5,376)	103(1,081)	439(1,882)	0(24)

数値は8月1半旬～5半旬の合計値 ( )は平年値 単位:頭

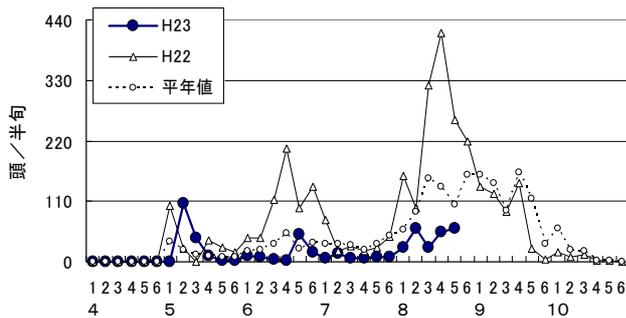
表2 果樹カメムシ類によるヒノキ球果の口針鞘数調査(2011年)

調査地域	調査時期 地点	6月上旬	6月中旬	7月上旬	7月下旬	8月上旬	8月中旬
		熊本地域	熊本市河内町	0.00	0.07	0.03	0.0
宇城地域	宇城市松橋町	0.03	0.00	0.00	0.6	6.0	8.6
	宇城市三角町	0.10	0.03	0.10	1.4	11.2	30.0
菊池地域	合志市栄	0.03	0.00	0.03	0.3	2.5	18.5
天草地域	天草市有明町	—	—	—	—	—	1.4
	天草市本渡町	—	—	—	—	—	0.0
	天草市栖本町	—	—	—	—	—	2.4
	天草市新和町	—	—	—	—	—	8.8
	苓北町	—	—	—	—	—	1.3
平均		0.04	0.03	0.04	0.58	5.20	8.03
平年値		0.02	0.13	0.53	2.68	7.10	11.29

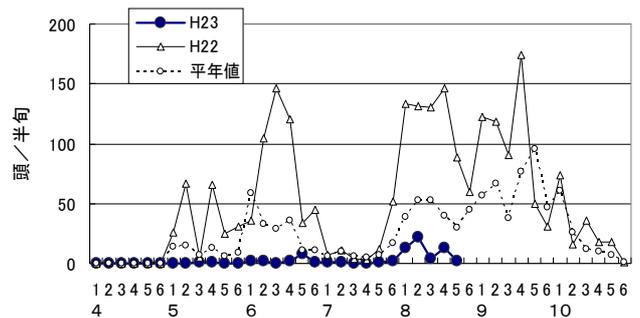
数値はヒノキ球果1果当たりの平均口針鞘数。(各地点30果調査) 単位:針鞘数/果

数値が25を超えると、成虫はヒノキを離脱し、樹園地等に飛来するとされる。

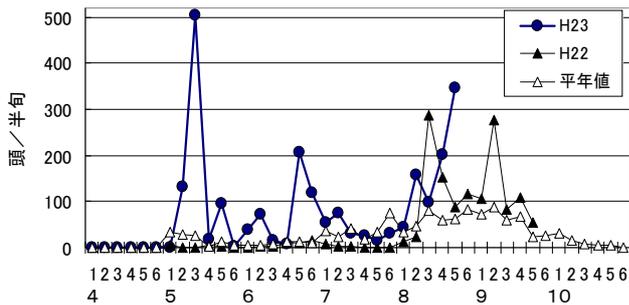
チャバネアオカメムシ(合志・予察灯)



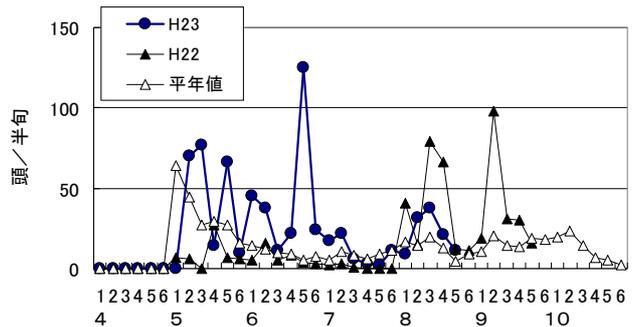
ツヤアオカメムシ(合志・予察灯)



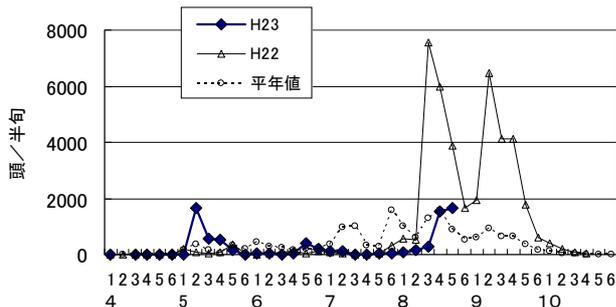
チャバネアオカメムシ(宇城・予察灯)



ツヤアオカメムシ(宇城・予察灯)



チャバネアオカメムシ(天草・予察灯)



ツヤアオカメムシ(天草・予察灯)

